

10年後のありたい姿

組合員一人ひとりの声や暮らしから生まれた願いを実現していくことが役職員の「喜び」や「やりがい」になっています。

組合員の「暮らしから生まれるつぶやき」や「暮らしから気づく声なき声」も含め組合員から寄せられる一つひとつの声を大切に、願いや想いを実現していくことが、役職員全員の「喜び」や「元気」となり、そして「やりがい」になっている状態をめざします。

職員

みんなで一緒に

配送担当として毎日組合員さんと接することができる私は、日々たくさんの「ありがとう」の声をいただくことができます。でもその度に、「とんでもない、私たちの方こそありがとうございますよ」と思っています。今も10年後も私たち生協職員の仕事は組合員さんがいて成り立ちます。互いになくはない存在として、どんな小さな声でも拾い上げ「笑顔ひろがる」コープいしかわをみなさんと一緒につくりたいと思います。

鶴来センター
平島 小鈴さん

金沢市富樫地区の地域担当。2030年ビジョン提言チームに参加し他部署の職員と一緒にビジョン策定に関わる。

10年後のありたい姿

人と人とのつながりを深め、笑顔のあふれる地域社会づくりの一翼を担っています。

地域に一人ぼっちをつくらず、人と人との「つながり」の中から生まれる「笑顔」のある地域社会づくりに向けて主体的に推進力を高め、他団体とともに役割を担っている状態をめざします。

地域団体

笑顔の地域づくり

現在、地域の課題はライフスタイルの変化や価値観の多様化に伴って複雑化してきています。これからの10年は、人口減少・高齢化の進行、情報通信技術の更なる進展による弊害、巨大災害の切迫など、更に大きな変化をもたらすことが予想され、地域が単独でその変化に対応していくのは大変困難なときを迎えると考えています。そこで地域づくりを担う当法人も、これまで以上に人と人との「つながり」が大切と考え、地域の主体性とコープいしかわさまをはじめとする多様な団体との協働によって、地域の課題を解消し、人々に「笑顔」をもたらすそんな地域づくりをともに担っていきたくて考えています。



東原で開催した「農業体験とたけのこ掘り」



くくのちのみなさん

中山間地である金沢市東原地区を拠点として里山保全活動を行っている。コープいしかわ第1回地域活動助成金対象団体となったことをご縁に、コープたまぼこでの野菜の販売や環境行事の共催などを実施している。

NPO法人くくのち
代表 小中 真道さん

10年後のありたい姿

「知りたい」「やりたい」をシェアし、みんなでカタチにすることで、より良い暮らしの選択肢が広がっています。

一人ひとりの「知りたいこと」や「やりたいこと」をみんなで受け止めシェア(共有)し、実現していくこと(カタチにしておくこと)で知識や経験が広がり、そのことが「より良い暮らし」に向けて一人ひとりの選択の幅を広げることのできる状態をめざします。

組合員

毎日の生活がワクワクに

ま〜やコープくらぶは、まさにコープいしかわのつながりの中から生まれました。コープいしかわを通してメンバーと出会い、一緒に学び、経験することで絆を深めてきました。私たちはメンバーの「知りたいこと」、「やりたいこと」を学習会や果物の収穫行事などのカタチで企画し、みんなで共有しています。10年後は10年分の学びが積み重なり、さらにパワーアップしていることと思います。体験を共有できる仲間がいることで毎日の生活がワクワクするものになりますね!

ま〜やコープくらぶ
山口 仁美さん

2012年に金沢近郊の組合員で結成したコープくらぶ。現在6名のメンバーで、昨年は商品試食学習会などの行事を開催。



みんなで育む2030年のコープいしかわ

私たちコープいしかわには「ビジョン」があります。「ビジョン」はコープいしかわのありたい姿として10年ごとに策定されます。組合員の声、役職員の想いを出発点に生まれた2030年ビジョンは事業や活動、地域、職員、経営といった視点をもとにつくられた4つの「10年後のありたい姿」とそれらを合わせたトータルビジョンできています。

2030年ビジョン トータルビジョン 育むつながりから 笑顔ひろがる CO-OP

生協に関わる全ての人々が事業や活動(協同の力)を通して、人と人、地域と人などさまざまなつながりをこれからも育み、育まれたつながりを通して組合員の願いや想いを実現し、その先には「みんなの笑顔が自然とあふれ広がっている」といった状態をめざします。

10年後のありたい姿

その人らしい暮らしを受け止め、心の通った事業をみんなで考え、一緒につくり続けています。

「日々の暮らしやライフスタイルが変わっても、自分らしい暮らしを続けていきたい」そんな想いに寄り添い、重なり合ってそして応える「心が通って安心して利用できる事業」を、組合員・役職員・生産者などのお取引先・地域住民、そしてこの10年で私たちの暮らしの身近な存在となっているであろうAIも含めて、みんなで一緒につくり続けている状態をめざします。

お取引先

声を聞いて商品に

現在、混沌とした社会情勢になっていますが、人と人とのつながりは、何年たってもかけがえのないものです。商品を製造するメーカーと購入されるお客さまとの関係ではなく、一組合員として今必要とされている商品とは何か?メーカーからの商品提案ではなく、つながりのある組合員さまのご要望に耳を傾け、それを商品にしていきたいと考えています。10年後もその想いは変わらずに暮らしに寄り添った商品づくりをめざします。



商品学習会で組合員の質問に答える井藤さん



能美市に店舗「ton-ton」を構え、牛乳・卵を使わないアレルギー対応のパンを製造する。じわもーでもおなじみ。コープいしかわの商品学習会にご協力いただくことも。

株式会社トントンハウス
代表取締役 井藤 修さん

2030年ビジョンができるまで

2019年 5~9月



組合員・役職員から寄せられた800を超えるメッセージや声を各職場から選出された2030年ビジョン提言チームで一つひとつ声を読み込み、ビジョン案をつくりました!

10~11月



県内10会場で開催した総代会議で、総代からいただいたご意見を受けて提言チームで再考し最終案を策定。

2020年 6月

総代会で承認

提言チームからのメッセージ



ビジョンはみんなの思いでできてます!



特集

2030年
ビジョン